

<書 評>

沢木耕太郎 『キャパの十字架』

(文藝春秋, 2013年, 335頁)

軽 部 恵 子

本書は、ノンフィクション作家であり写真家でもある沢木耕太郎が、ロバート・キャパ (Robert Capa, 1913-1954) の最も有名な写真「崩れ落ちる兵士」(正式には「共和国軍兵士, コルドバ戦線, スペイン」) が撮影された場所を探し求める経緯を記したものである。

各章のタイトルは、第1章「崩れ落ちる兵士」、第2章「真贋」、第3章「彼の名前」、第4章「小麦とオリーブ」、第5章「その丘で起こったこと」、第6章「突撃する兵士」、第7章「ゲルダ」、第8章「影は語る」、第9章「ラスト・ピース」、そして第10章「キャパへの道」である。各章を辿っていくと、キャパの撮影場所を突き止めるミステリーを時系列に追体験できる。この他、短い「あとがき」と「参考文献」がある。

著者の沢木は、1947年に東京に生まれ、横浜国立大学を卒業後、ルポライターとして活動を始めた。1979年に『テロルの決算』で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞し、1982年に『一瞬の夏』で新田次郎文学賞を受賞した。3年後の1985年に『バーボン・ストリート』で講談社エッセイ賞を受賞した。2006年には、登山家の山野井泰史・妙子夫妻がネパール国境のギャチュンカン山に挑んだ際、それぞれが下山時に経験した極限状態を描いた『凍』で、講談社ノンフィクションを受賞した。著者の確かな取材力はもとより、読みやすく、臨場感溢れる文体には定評がある。

キャパの「崩れ落ちる兵士の写真」は、1936年9月初め頃にスペイン内戦で撮影されたものとして、同年にフランスの写真週刊誌『ヴェュ』(Vue)、ついでアメリカの写真を中心とした雑誌『ライフ』(LIFE)に掲載された。し

かし、1970年代頃から真贋論争が始まり、1975年に『サンデー・タイムズ』紙の記者フィリップ・ナイトリー（Phillip Knightley, 1929-）が、クリミア戦争からスペイン内戦、ベトナム戦争まで、従軍記者の報道ぶりを検証する大著『戦争報道の内幕』を出版した（pp. 14-15）。最近では、2009年7月17日のスペイン紙『ペリオディコ』（El Periodico）は、写真の背景にある地形を分析した結果、キャバがこの写真を撮影したのはアンダルシア地方のセロ・ムリアーノ（Cerro Muriano）ではなく、そこから約50km 離れ、戦闘の行われていなかったエスペホ（Espejo）付近であるとし、ゆえに写真は「やらせ」だったと伝えた（AFPBB News「ロバート・キャバ『崩れ落ちる兵士』にやらせ疑惑、スペイン紙、2009年07月18日 16:57 発信地：マドリード／スペイン」、<http://www.afpbb.com/articles/-/2622243?pid=4372773>、最終アクセス2013年11月2日）。

ロバート・キャバは有名だが、彼の生い立ちは名前ほど知られていない。戦場カメラマンの代名詞とも言える人物は、今からちょうど100年前の1913年10月22日、ハンガリーのブダペストにユダヤ系の両親の間に生まれた。彼の名前は、ハンガリー語でフリードマン・エンドレ、ドイツ語ではエンドレ・フリートマン、フランス語でアンドレ・フリードマンと発音される（pp. 22-23 参照）。当時のハンガリーはオーストリアと二重帝国を成していたが、第1次世界大戦が終結した1918年にオーストリアから独立した。

キャバの両親は婦人服の仕立屋を営んでおり、比較的裕福だったが、ユダヤ系として差別を受ける中で、若いキャバは政治活動に関わっていった（p. 23）。1931年にドイツに渡り、ジャーナリズムを勉強していたが、世界大恐慌によって両親の資力が尽きたので、言葉ができなくてもジャーナリストになる方法として、写真家の道を志した（同上）。キャバはベルリンでフォトジャーナリズムを学んだが、1933年にナチス政権が誕生すると一時ハンガリーに戻り、数か月でパリに逃れた（p. 24）。当初は本名で写真を撮っていたが、一向に売れなかったため、恋人のゲルダ・タロー（Gerda Taro, 1910-1937）とともに、「有名なアメリカ人写真家 ロバート・キャバ」という架空の人

物を創り出し、写真を売り込んだ (pp. 27-28)。

実は、ゲルダ・タローも本名ではない。本名はゲルダ・ポホリレ (Gerda Pohorylle) で、ドイツのシュトゥットガルトに生まれた東欧系のユダヤ人だった。ゲルダとキャバの出会いから恋人になるまでの過程は劇的である (pp. 25-27)。さらに驚くことに、「タロー」は、パリ・モンパルナスの芸術家仲間の岡本太郎に由来する (p. 28)。キャバは、モンパルナスで知り合った川添浩史のアバルトマンに居候させてもらうほど一時は困窮しており、川添の紹介で毎日新聞の仕事をさせてもらっていたが、川添と付き合っていたパリ在住の日本人の中に岡本太郎がいた (p. 29)。評者にとって、岡本のイメージは「芸術は爆発だ」の名文句と、1970年の大阪万博 (日本万国博覧会) のために設計した「太陽の塔」である。パリ時代の岡本にキャバとそのようなつながりがあったとは。まさに「縁は異なるもの味なもの」ではないか。なお、川添は戦前から国際文化交流にかかわってきたが、1960年に麻布でレストラン「キャンティ」を開いた人物でもある (<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/yukari/j/man-detail.cgi?id=32>, 2013年11月25日アクセス)。

キャバはやがて、スペイン語のできるゲルダとともにスペイン内戦の取材に行く。「崩れ落ちる兵士」が『ライフ』誌1936年7月12日号に掲載されると、彼は一躍有名となった。ゲルダが1937年7月に突然の死を迎えた後も、キャバは日中戦争、1944年6月6日のノルマンディー上陸作戦と、戦場を駆け巡った。第2次世界大戦後の1947年、仲間たちとともに写真通信社「マグナム・フォトス」を設立した。1954年3月の第五福竜丸被曝事件を取材し、その傍ら市井の人々の撮影を楽しんだ。東京駅のホームに立つ男の子を映した「東京駅」(1954年4月18日撮影) で見せたカメラマンの視線は優しく、暖かい。1954年5月25日、インドシナ戦争の戦場に入ったキャバは地雷に接触し、波乱に満ちた生涯を終えた。

沢木耕太郎は、キャパの伝記作家リチャード・ウィーラン (Richard Whelan, 1946-2007) の翻訳作業をしながら、写真の真贋論争が気になっていた (p. 30)。ウィーランはキャパの弟コーネル・キャパの全面的な協力を得て伝記を執筆したため、兄の作品を守ろうと尽力した弟に対する遠慮もあったと推測されるが、「崩れ落ちる兵士」が最初に掲載されたフランスの写真週刊誌『ヴェ』1936年9月23日号を慎重に検証したという (pp. 31-34)。ウィーランが件の写真を戦場におけるものと断定したエッセイは、末尾の参考サイトに掲載した。

一方、著者はウィーランの著作を翻訳する過程で、写真は兵士が狙撃された際に撮影されたものではない、と考えるようになった (p. 41)。その疑問を確信に変えてくれたのが、小説家の大岡昇平 (1909-1988) である。大岡は、京都帝国大学仏文科を卒業して会社員となったが1944年に召集され、フィリピンでアメリカ軍の捕虜になった。戦後は、1949年に『俘虜記』で第1回横光利一賞を受け、その後も『野火』、『レイテ戦記』(毎日芸術大賞)と、出征体験に基づく小説を著した (<http://www.shinchosha.co.jp/writer/987/>, 2013年11月3日最終アクセス)。大岡は、沢木の持ち込んだ写真に映る兵士たちの姿勢と銃の構え方を観て、兵士たちは戦闘中でなく演習中だったと断言した (pp. 43-44)。歴史のミステリーを解決するには、折々に重要なヒントを与えてくれる人物がいる (この「いる」は、「居る」と「要る」の双方の意味である)。当時存命だった大岡の「鑑定」を得られたことは、著者にとって調査への大きな原動力になったのではないか。

その後、キャパの写真のモデルとなった兵士の身元と、1936年9月5日にセロ・ムリアーノで頭部を撃たれて戦死していたことが判明する (pp. 46-47)。さらに、現地を訪問した日本人が、現地にある「トリアルバレスの丘」と「崩れ落ちる兵士」の地形がぴったり合致したという記事を毎日新聞に掲載した (pp. 55-56)。だが、その記事は著者の疑問を一層膨らませるだけであった (p. 56)。

著者が「崩れ落ちる兵士」について再度調べようと思ったのは、先述した

2009年のAFP通信の記事を読んでからであった(p.71)。記事が掲載された翌年の夏、著者はセベリアに在住する知り合いの日本人に連絡し、『ペリオディコ』紙の新説は、J.M. ススペレギという大学教授の研究結果に基づくことを知る(p.72)。2010年、著者は、セロ・ムリアーノのあるコルドバ地方から800km離れたバスク地方に住む同教授を訪問した(pp.74-75)。ここで、運命の巡り合わせのようなことが起きる。パイス・バスコ大学で映像論を教える教授の母方の曾祖母はバスク地方に住み、スペイン内戦勃発後フランスへ避難しようとしたが、1936年9月4日に海岸でカメラマンに自分の姿を取られた(p.75)。だが、月日が経つうちに、腰を下ろして顔を覆った老女の写真は、ゲルニカの惨劇を示すものとして利用された(同上)。ススペレギ教授は、「本来の文脈を離れて別の意味を付与されるようになってしまった作品について調べる」(p.76) ライフワークの一環として、キャバの「崩れ落ちる兵士」を取り上げたのであった。第4章には、教授がエスベホ説にたどり着くまでの過程が詳細に記されているが、これだけでドキュメンタリー番組を1本制作できるほど、驚きと感動に満ちている。

沢木は「写真は嘘をつく」(pp.75-76)と断言する。この一節を読んで、評者は1991年の湾岸戦争で油にまみれた水鳥の写真を即座に思い出した。あの写真は、多国籍軍の攻撃に巻き込まれて死んだ民間人より、イラク軍の破壊した油井から流れ出した原油にまみれ、飛ぶことができなくなった水鳥の方を哀れに思わせた。いつの時代にも、情報を批判的に分析できるメディア・リテラシーが個々人に求められている。

本書に話を戻そう。著者は文字通り足を使い、撮影現場とされた地などを丹念に歩く。調査は数年以上にわたった。現地の空気の臭いをかぎ、天候を経験し、風景を眺めることで気付くこともあるから、この時間は無駄でなかったであろう。

読者の楽しみをとっておくため、本書の結論だけ述べると、「崩れ落ちる兵士」は、モデルの兵士は演習中に足を滑らせただけで、しかも撮影者はキャバではなく、恋人のゲルダだった(p.296)。しかし、女性戦場カメラマン

の草分けだったゲルダは、戦車に轢かれて27歳で亡くなってしまふ。これが、著者が本書のタイトルを「キャパの十字架」とした理由に関係してくる。

著者の結論は、これから歴史家をはじめ大勢の人々による検証を経ることになるが、現時点で最も有力な説と評者には思えた。今後、他の研究者やジャーナリストが本書の説をどう検証していくかが楽しみである。

本書に基づくNHKの番組「NHKスペシャル 沢木耕太郎 推理ドキュメント 運命の一枚 ～“戦場”写真 最大の謎に挑む～」(初回放送2013年2月3日)では、現代の文明の利器コンピューター・グラフィックスを用い、撮影者の位置、カメラのアングルなどを詳細に検討して、沢木説を鮮烈に描き出す。本書を通読してから番組を観るのもよいし、あるいは番組を観てから本書に入ってもよいだろう。

最終的な真贋論争がどう決着するにせよ、「崩れ落ちる兵士」の写真が持つ強力なイメージは、スペインにおけるファシズム勢力を糾弾する共和国側のプロパガンダに使われた。そのような例は歴史上枚挙にいとまがない。

本書を読み終えた読者には、キャパのエッセイ『ちょっとピンぼけ』をぜひ手に取ってもらいたい。軽妙洒脱な文章の中に、ダンディーなカメラマンの斜に構えた笑顔が浮かび上がってくるだろう。ノルマンディー上陸作戦の直前でさえ、彼はユーモアとおしゃれを忘れなかった。そうでもしなければ、心の均衡を保てなかったのかもしれないが。

最後に、本書に関連する参考サイトを本稿末尾に付した。キャパの作品は「マグナム・フォトス」の公式ホームページで鑑賞することができる。ノルマンディー上陸作戦の写真はもちろん、アンリ・マティスの制作風景、パブロ・ピカソのおどけた顔など、多様な写真が掲載されている。『ライフ』誌のバックナンバーはLIFEのホームページ (<http://life.time.com/>) に掲載されているが、とくにHistory (<http://life.time.com/history>) を勧めたい。グーグルのイメージ検索にも、キャパの作品を集めたサイトがある。読者の参考になれば幸いである。

<参考サイト>

※英文タイトルの大文字小文字は原文のままである。

NHK 総合「NHK スペシャル 沢木耕太郎 推理ドキュメント 運命の一枚
～“戦場”写真 最大の謎に挑む～」(初回放送2013年2月3日)

<http://www.nhk.or.jp/special/detail/2013/0203/> (2013年11月30日最終アクセス).

NHK Eテレ「日曜美術館 ふたりの“キャバ”」(初回放送2013年3月3日)

<http://www.nhk.or.jp/nichibi/weekly/2013/0303/> (2013年11月30日最終アクセス).

NHK BS プレミアム「ロバート・キャバ生誕100年 キャバが愛した三人の女」
(初回放送2013年3月31日)

<http://pid.nhk.or.jp/pid04/ProgramIntro/Show.do?pkey=700-20130331-10-08759>
(2013年11月30日最終アクセス).

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館企画展「マグナムを創った写真家たち～キャ
バ, カルティエ=ブレッソン, ロジャー, シーモア～」(開催期間2012年9月1
日～2012年11月30日)

<http://fujifilmsquare.jp/detail/12090101.html> (2013年11月30日最終アクセス).

横浜美術館「ロバート・キャバ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」(開催期間 2013
年1月26日～2013年3月24日)

<http://www.yaf.or.jp/yama/jiu/2012/capataro/> (2013年11月30日最終アクセス).

BBC. “Robert Capa at 100: The war photographer’s legacy.” 22 October 2013. Available
at <http://www.bbc.com/culture/story/20131022-robert-capa-photo-warrior> (last vis-
ited November 30, 2013).

Estrin, James. “Robert Capa: Finding a Fearless Photographer’s Voice.” October 22,
2013. Available at [http://lens.blogs.nytimes.com/2013/10/22/finding-a-fearless-
photographers-voice/?_r=0](http://lens.blogs.nytimes.com/2013/10/22/finding-a-fearless-photographers-voice/?_r=0) (last visited November 30, 2013).

International Center of Photography. “CAPA AT 100.” Available at [http://www.icp.org/
robert-capa-100](http://www.icp.org/robert-capa-100) (last visited November 30, 2013).

LIFE. Available at <http://life.time.com> (last visited November 30, 2013).

LIFE photo archive hosted by Google. Available at [http://images.google.com/hosted/
life](http://images.google.com/hosted/life) (last visited November 30, 2013).

Magnum Photos. “Robert Capa: American, b. Budapest 1913 - d. Indochina 1954.”
Available at [http://www.magnumphotos.com/C.aspx?ERID=24KL535353&VF=
MAGO31_10_VForm&VP3=CMS3](http://www.magnumphotos.com/C.aspx?ERID=24KL535353&VF=MAGO31_10_VForm&VP3=CMS3) (last visited November 30, 2013).

PBS (Public Broadcasting Service). “Reporting America at War—The Reporters —

- Robert Capa.” Available at <http://www.pbs.org/weta/reportingamericaatwar/reporters/capa/> (last visited November 30, 2013).
- PBS. “Reporting America at War—The Reporters —Robert Capa Photo Gallery.” Available at <http://www.pbs.org/weta/reportingamericaatwar/reporters/capa/photo1.html> (last visited November 30, 2013).
- Nolan, Steven. “The celebrated work of photographer Robert Capa, famous for capturing some of the world’s most fearsome battles, who would have been 100 this week.” *MailOnline* 19 October 2013. Available at <http://www.dailymail.co.uk/news/article-2467382/Incredible-war-photos-Robert-Capa-born-100-years-ago-week.html> (last visited November 13, 2013).
- O’Hagan, Sean. “Robert Capa and Gerda Taro: love in a time of war.” *The Observer* 13 May 2012. Available at <http://www.theguardian.com/artanddesign/2012/may/13/robert-capa-gerda-taro-relationship> (last visited November 30, 2013).
- Whelan, Richard. “Proving that Robert Capa’s ‘Falling Soldier’ Is Authentic.” Available at http://www.photographers.it/articoli/cd_capa/img/falling%20soldier.pdf (last visited November 30, 2013).
- . “Robert Capa and the Spanish Civil War: Courage, loyalty and empathy.” Date not given. Available at <http://www.freedomforum.org/publications/msj/courage.summer2000/y07.html> (last visited November 30, 2013).
- . “Robert Capa in Love and War.” May 28th, 2006. Available at <http://www.pbs.org/wnet/americanmasters/episodes/robert-capa/in-love-and-war/47/> (last visited November 30, 2013).